生誕100年記念
向井潤吉の旅

西欧の民家と風土

2001年4月1日[日]→7月29日[日]

開館時間＝午前10時～午後6時〈入館は5時30分まで〉　休館日＝毎週月曜日〈ただし祝日と重なった場合は翌日〉
観覧料＝一般200円（160円）大高生150円（120円）中小生100円（80円）
65歳以上及び障害者の方100円（80円）　（）内は20名以上の団体料金

ヨーロッパ風景（シャルトルの小川）　昭和34～35年（1959～60年）

世田谷美術館分館
向井潤吉アトリエ館
〒154-0016 東京都世田谷区弦巻2-5-1 TEL 03-5450-9581

生誕100年記念
向井潤吉の旅

西欧の民家と風土

このたびの展覧会では、向井潤吉が昭和30年代にパリ近郊をはじめ、イタリアやベルギーなどで取材、制作した、西欧の民家作品を中心にご紹介をいたします。

向井潤吉は、戦後からおよそ40年間にわたって全国を巡り歩き、草屋根をモティーフとした作品を描き続けた画家として知られています。その取材範囲は北海道から九州にまでおよび、約1000件におよぶ民家の前にイーゼルを立て、3000点に近い民家を題材とした作品を制作したものと推測されています。

向井は昭和2年（1927）から昭和5年（1930）にかけて、初めてヨーロッパにわたり、ルーヴル美術館で古典名画の摸写に専念し、また欧州各地の美術館を訪ね、西洋美術の本質に触れようとする経験を重ねました。この滞欧期間中に、向井はヨーロッパの風景をほとんど描くことはありませんでした。

帰国後、二科展に出品を重ねるほか、従軍画家として戦争記録画を制作した向井が、終戦後、それまでには取り組んだことのない草屋根の民家という題材に出会ったのは、昭和20年（1945）の秋のことでした。これ以降、向井は終生のモティーフとして、日本古来の伝統的な住まいである草屋根の民家を描き通すことになります。

今回ご紹介するヨーロッパ各地で取材された諸作品は、昭和34年（1959）5月から翌年の3月にかけて、パリを中心として滞欧した時期に制作されたものです。日本の民家を描き始めてから10数年を経たのち、向井はヨーロッパ各地の民家を題材とした作品を制作しました。

残念なことですが、昭和36年3月に、向井は不審火によってアトリエを失い、この滞欧期間中に制作された作品も含み、多くの諸作品が灰燼に帰してしまいました。しかし、スケッチブックに描かれた水彩作品は、紙の周辺は焦げ落ちたものの、わずかに焼失を免れました。このたびの出品作品にみられる焦げ跡は、この悲しむべき火災の痕跡です。

明治34年（1901）に生まれ、日本の草屋根の民家を描き続けた向井潤吉の目と筆がとらえた、ヨーロッパ各地の民家と風土を、お楽しみいただきたいと思います。

ヨーロッパ風景（不詳）　昭和34～35年（1959～60年）

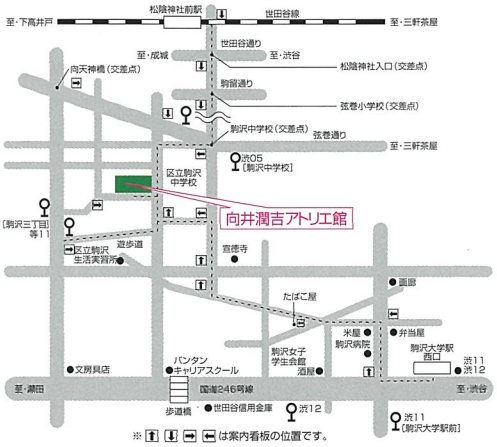
ヨーロッパ風景（フィレンツェ・ポンテヴェッキオ）
昭和34～35年（1959～60年）

世田谷美術館分館
向井潤吉アトリエ館

〒154-0016 東京都世田谷区弦巻2-5-1 TEL 03-5450-9581

●最寄り交通機関のご案内

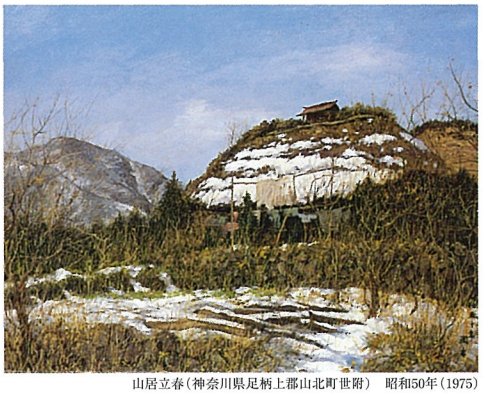
東急田園都市線［駒沢大学］駅　西口　下車／徒歩10分
東急世田谷線［松陰神社前］駅　下車／徒歩17分
東急バス（渋05）渋谷～弦巻営業所　［駒沢中学校］　停留所下車／徒歩３分
東急バス（等11）祖師谷折返所～等々力［駒沢三丁目］　停留所下車／徒歩３分
東急バス（渋11）渋谷～田園調布　［駒沢大学駅前］停留所下車／徒歩10分
東急バス（渋12）渋谷～二子玉川　［駒沢大学駅前］停留所下車／徒歩10分



ヨーロッパ風景（キオッジャ）　昭和34～35年（1959～60年）

ヨーロッパ風景（ベルージア）　昭和34～35年（1959～60年）

春叢(埼玉県東松山市神戸)　昭和63年（1988）



山居立春（神奈川県足柄上郡山北町世附）　昭和50年（1975）